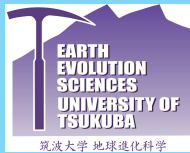


2014 年度 第 10 回



日時：10 月 22 日（水）16：30 ～

場所：総合研究棟 B110

地質学セミナー

古生代ペルム紀アラトコンカ科二枚貝

Shikamaia akasakaensis Ozaki の古生物学的再検討

発表者：安里 開士（生物圏変遷科学分野 M1）

1. 研究背景

Shikamaia akasakaensis Ozaki とは、古生代ペルム紀に生息していた二枚貝の一種である。この二枚貝は断面が“く”の字状の殻を呈し、あたかも翼を広げたような形態を示す。この形態から、現在では Alatoconcha 科（意味：翼を持つ貝）の二枚貝として分類されている（Yancey and Ozaki, 1986）。

S. akasakaensis Ozaki（以後アカサカシカマイアとする）は Ozaki (1968) により報告されて以降、多くの研究がなされている（Runnegar and Gobbett, 1975; Yancey and Boyd, 1983; Yancey and Ozaki, 1986 など）。特に Yancey and Ozaki (1986) は岐阜県本巣市根尾から発見されたアラトコンカ科二枚貝をアカサカシカマイアとして再記載しており、アカサカシカマイアの古生態を復元している。しかし、ホロタイプのアカサカシカマイアと根尾のアラトコンカ科二枚貝の形態比較は全く行われておらず、これらが同種であるかは議論の余地がある。

2. 目的

本研究では、ホロタイプと同層準のアカサカシカマイアの再検討を行いアカサカシカマイアの殻形態と古生態を議論することを目的とする。またアカサカシカマイアと根尾のアラトコンカ科二枚貝を比較し、同一種かどうかの検討も行っていく。

3. 研究手法

本研究では主にトポタイプ標本のクリーニングを行い、その殻形態を推測する。また可能ならば、殻の内部形態を議論する際に CT スキャンによる化石の観察を行う。アカサカシカマイアの古生態を議論する場合は、殻の微細構造を観察する。

4. 進捗状況と今後の予定

演者は現在、5 個体分のアカサカシカマイアのトポタイプ標本のクリーニングを行っている。その内 3 個体に関して、殻形態が明らかになっている。演者は、この 3 個体を基に現段階でのアカサカシカマイアの殻形態を推測した（図 1）。殻形態における標本の部位は図 2 に示す。今後は、まだ理解できていない殻の外部形態と内部構造を明らかにするとともに根尾のアラトコンカ科二枚貝との形態比較を行っていく。

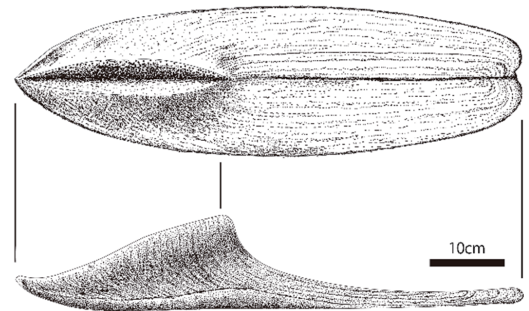


図 1. 現段階における S. akasakaensis Ozaki の殻形態

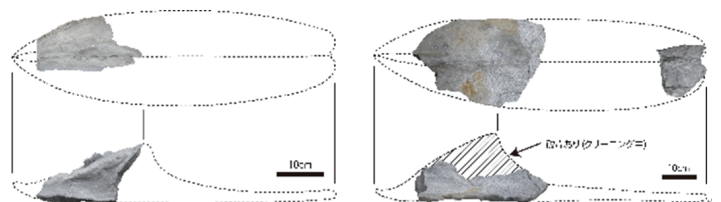


図 2. 殻形態における標本の部位。

参考文献

Yancey, T. E., & Ozaki, K. (1986). Redescription of the genus Shikamaia, and clarification of the hinge characters of the family Alatoconchidae (Bivalvia). Journal of Paleontology, 60: 116-125.

次回のお知らせ

日時：10 月 29 日 16 時 30 分～, 場所：総合研究棟 B110

発表者 奥脇 亮（地球変動科学 M1）

小林 翼（生物圏変遷科学 M1）

平本 潤（哺乳類生物学 M1）

連絡先

池端 慶（岩石学）ikkei@geol.tsukuba.ac.jp

遠藤 雄大（岩石学 D1）tendo@geol.tsukuba.ac.jp